

くらしき作陽大学音楽学部におけるキャリア教育の実践 — 職業音楽人キャリアⅡ —

Practice of Career Education at The Faculty of Music in KURASHIKI SAKUYO University
— SHOKUGYO-ONGAKU-JIN Career Ⅱ —

新名 俊樹
Toshiki SHIMMYO

Keywords : Career Education, Vocational Training, Life Planning

要 旨

2021年度入学生から全学的なカリキュラム改定がおこなわれ、「職業音楽人キャリア科目群」の卒業必修科目として1年後期に「職業音楽人キャリアⅠ」、2年前期に「職業音楽人キャリアⅡ」を新規開講した。本稿では「職業音楽人キャリアⅡ」の実践について報告する。音楽学部生の進路は多岐に亘るため、同一授業の中で扱うことは難しい。そこで「職業音楽人キャリアⅠ」では敢えて「就職」というキーワードを使わず、まずは「学生の心に火をつけ、やる気を起こし、その背中を押すこと」を目的とした。「職業音楽人キャリアⅡ」ではもう一步踏み込んで、「自分の生き方あるいは自分らしく生きるとは何かを考えてもらうこと」を目的とした。テキストにリンダ・グラットン／アンドリュー・スコット著『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』の学生向けエッセンシャル版『16歳からのライフ・シフト』を選定した。「職業音楽人キャリアⅠ」同様に90分間全8回分の授業を自らビデオカメラで撮影編集し、当日中にYouTubeに限定配信して、そのURLをグループLINEで受講生に伝えた。「2022年度の授業評価アンケート結果」の質問Bの「9 この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか。」の項目では「とてもそう思う」が39/49(約80%)、「そう思う」が10/49(約20%)であった。「10 授業内容は、よく理解できましたか。」の項目では「とてもそう思う」が38/49(約78%)、「そう思う」が11/49(約22%)であった。

1. はじめに

2021年度入学生から全学的なカリキュラム改定がおこなわれた。音楽学部においても「学部開講科目」を「音楽の理論と基礎を学ぶ科目群」、「演奏力とアンサンブル力を身につける科目群」、「職業音楽人キャリア科目群」、「教職関連科目群」の4つに大別した。その中で「職業音楽人キャリア科目群」の卒業必修科目として1年後期に「職業音楽人キャリアⅠ」、2年前期に「職業音楽人キャリアⅡ」を新規開講した。「職業音楽人キャリアⅠ」の実践については2024年度に報告した¹。本稿では「職業音楽人キャリアⅡ」の実践について報告する。なお『職業音楽人(しょくぎょうおんがくじん)』の呼称は造語であり、カリキュラム改定の際に筆者がネーミングしたものである。

2. 「職業音楽人キャリアⅡ」について

2-1. 目的

音楽学部生の進路は「中学校教諭、高等学校教諭、演奏家、オーケストラ団員・吹奏楽団員、音楽隊員(自衛隊・消防・警察)、音楽教室講師、音楽関連企業、楽器店、楽曲制作者、マーチング指導者、海外留学、大学院進学」と多岐に亘り、同一授業の中で扱うことは難しい。そこで「職業音楽人キャリアⅠ」では敢えて「就職」というキーワードを使わず、まずは「学生の心に火をつけ、やる気を起こし、その背中を押すこと」を目的とした。「職業音楽人キャリアⅡ」ではもう一步踏み込んで、「自分の生き方あるいは自分らしく生きるとは何かを考えてもらうこと」を目的とした。

2-2. 概要

図1にシラバスを示す。授業の到達目標に『「キャリア」とは単に「就職」に関するだけでなく、これからの人生において「どのように働くのか」や「どのような生活を送るのか」を含めた「生き方」であり、その意味を正しく理解する。』と記載した。「職業音楽人キャリアⅡ」では、このテーマについて少し深く問うので、テキストにリンダ・グラットン／アンドリュー・スコット著『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』の学生向けエッセンシャル版『16歳からのライフ・シフト』²を選定した。「職業音楽人キャリアⅠ」同様に90分間全8回分の授業を自らビデオカメラで撮影編集し、当日中にYouTubeに限定配信して、そのURLをグループLINEで受講生に伝えた。全8回分の授業ノートおよび「まとめのレポート」を各自のスマートフォンで撮影し、その写真をUNIVERSAL PASSPORT（以下UNIPA）の「クラスプロフィール」の「課題提出」へ1週間以内に提出することを評価方法とした。提出されたノート写真に関してはUNIPAで毎回コメントを返し、未提出者には個別にLINEで促し、「やむを得ない事情による欠席」如何にかかわらず、欠席した回であってもYouTubeで動画を見て必ず全てのノート写真を提出させることに努めた。非常に手間暇のかかる方法だが「職業音楽人キャリアⅠ」で目に見える教育効果があったので、継続していった。

授業コード	1400900301	授業内容	自学・自習内容	自学・自習時間
卒業要件	必修	1. 職業音楽人キャリアを振り返って	1. 講義した内容を振り返り、ノートを整理して復習すること	1. 45分
開講学部・学科	音楽学部・音楽学科／短期大学・音楽学科音楽専攻	2. 人生100年時代で何かわかるのか/長寿という開り物	2. テキスト(第1・2章)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	2. 180分
授業科目名	職業音楽人キャリアⅡ(音楽・短音)(8回開講)	3. 学校・仕事・退職後引退生活という人生モデルはこれからどうなるの?	3. テキスト(第3章)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	3. 180分
単位数	1.0	4. 機械化・AI後の働き方は?	4. テキスト(第4章)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	4. 180分
担当教員名	新名 俊樹	5. お金で買えない物って?	5. テキスト(第5章)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	5. 180分
担当教員の業務経歴	なし	6. 自分の可能性を広げる	6. テキスト(第6章)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	6. 180分
授業形態	演習	7. 人生の選択肢の多様化/これからの自分の時間の使い方	7. テキスト(第7・8章)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	7. 180分
開講期	後期	8. 未来の人間関係/未来に向けて前進する	8. テキスト(第9・10)を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	8. 180分
履修要件	特になし	テキスト	リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット 著『16歳からのライフ・シフト』東洋経済新報社、2023年、1,650円(税込)、ISBN9784492047385	
履修上の注意	テキストと専用ノートを毎回持参すること	参考書	特になし	
キーワード	キャリアデザイン、ライフプラン、進路、職業選択	評価方法	授業ノート(80%)、まとめレポート(20%)	
授業の到達目標	「キャリアとは単に「就職」に関するだけでなく、これからの人生において「どのように働くのか」や「どのような生活を送るのか」を含めた「生き方」であり、その意味を正しく理解する。まずは主体的に授業ノートを作り、自分の考えをまとめることができる。「職業音楽人キャリアⅠ」から続いて学ぶことで、自分の生き方や人生に対する問題意識をより高めることができる。与えられたテーマに沿って一層に考え、積極的に自分の意見をノートに記録していく。さらに自ら関連書籍や参考文献を読むことで興味関心を広げることができる。この先の進路選択や職業選択について真剣に考え、積極的にその実現に向けて取り組むことができる。	授業を通して学生が達成すべき成果	(3)人として生き方を考えたり、人間形成に役立つ (8)問題を発見して解決する力を向上させる (9)職業を選択する力の向上や、職業に就く意欲がわく	
授業の概要	ベストセラー『ライフ・シフト』の要約版を読み、講義を聞き、ノートを取り、考えをまとめる反復訓練をおこなう。授業は演習形式で、指定のテキストに沿ってすすめる。自主学習支援として毎回の講義はYouTubeに限定公開するので、反復視聴できる。	問い合わせ先	shimmyo@ksu.ac.jp	
授業計画		関連リンク・その他	UNIPA等を通じてフィードバックをおこなう。	

図1 「シラバス」

2-3. 初回授業

図2に初回授業の提示教材と授業風景を示す。まずは『思い込みをぶっ壊せ』『違和感を持って』の再確認と称して、「職業音楽人キャリアⅠ」の初回授業を再度実施した。これは後々の伏線にもなっているが、「見えないものや予想できないものに対して、人は不安を感じる」の裏返しで、一度見たことのある資料や動画を使って同じ講義を聞くと、記憶への定着率も向上するという体験をさせるためである。同時に予習の有用性であり、「未来を想定することが実は不安解消に繋がるということ」の体感実験でもある。提示教材は「職業音楽人キャリアⅠ」からの一貫性を持たせるために全てプレゼンテーションソフト『Prezi (プレジ)』³で作成しており、ワイヤレスマイクを持ちながらBluetoothの指輪型コントローラーで操作した。

初回授業で特筆すべき点は2022年にデビュー50周年を迎えた68歳の現役シンガーソングライター「松任谷由実(荒井由美)」⁴を例に、寿命が伸びたことも含め、皆の想像以上に現役時代が長くなっている事実を示したことである。「日本の寿命は過去200年の間に10年に2年以上のペースで伸びてきた。いま20歳の半数以上が100歳以上、40歳の方は95歳以上、60歳の方は90歳以上まで生きる可能性がある。」⁵とされている。まさに目の前にいる受講生の多くは100歳以上まで生きる可能性があり、医療技術の発展も伴って心身が健康であれば50年間以上現役で音楽活動を続けていくことが可能な時

代になった。「より自分らしく生きる」ためにはどうすれば良いのか、何を大切にしていけばいいのか、そのためにも大きく人生観が変わることを受け入れていく準備が必要であり、「80歳の自分を考えること」を手がかりとし、そのきっかけを自ら探っていく授業であることを伝えた。



図2 「初回授業の提示教材と授業風景」

2-4. 2回目以降の授業

図3に2回目以降の授業の提示教材と授業風景を示す。ここからは大きく前半と後半に分けており、まずは『WARMING UP』と名付けた導入部分を設け、後半の『16歳からのライフ・シフト』に繋がる話題を用意した。「職業音楽人キャリアⅡ」では前半にかなりの時間を割いて、ある程度の前提条件になるキーワードを詳細に解説した。著者が『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』の読後に感じたことであるが、人材論や組織論の世界的権威でありロンドン・ビジネススクール教授のリンダ・グラットンが書いているので、成功哲学や自己啓発における世界的ベストセラーであるスティーブン R.コヴィー著『7つの習慣』に通じる考え方が根底に流れていると思われた。さらに自らの読書遍歴を遡りながら、この考え方に近い著書や人物の話を加えて、その基礎的要素の積み上げも同時に必要であると感じた。各回の『WARMING UP』の話題は以下のとおりである。

- 2回目) 品質とスピードはトレードオフか?
- 3回目) 教養なんか身につけても何かの役にたつことがあるんですか?
- 4回目) 困った時は補助線を引いてみる。
- 5回目) 【人生の補助線】成功者の共通点を知る「7つの習慣」

- 6回目)【人生の補助線】 稀代のアイデアマン「小林一三」
- 7回目)【人生の補助線】 後手に回るより、先手を打とう「上流思考 (UPSTREAM)」
- 8回目)【人生の補助線】 最強のソリューション「早寝早起き朝ごはん」

後半で使用している『16歳からのライフ・シフト』は、2023年8月22日初版の高校生向けに書かれた230ページのB5判の単行本である。2022年度と2023年度は『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』の日本人設定に置き換えた『超訳ライフ・シフト：100年時代の人生戦略』を使用していたが、2024年より変更した。東洋経済新報社のウェブサイトはこのシリーズのマップ⁶が掲載されているが、事実上の後継版にあたる。図4に示す。「全国の中学・高校「総合的な探究の時間」「家庭科」、大学・専門学校のキャリア教育のテキストとしてお使いいただけます。」⁷と書いてあるとおり、『超訳ライフ・シフト：100年時代の人生戦略』よりかなり要約かつ整理されている。監修の「宮田純也・未来の先生フォーラム」のおかげであることは間違いない。文中に細かく薄い緑色で「まとめ」が記載されており、章末ごとに「問い」も設定されている。何人かの受講生はこの「問い」に対しての自らの感想なり回答をノートに書いて提出してくれていた。読書習慣のあまりない大学生であっても、この「まとめ」があることの意味は大きく、内容理解の手がかりにはなる。教科書選定の難しさを感じていたところであったので、『16歳からのライフ・シフト』の発行は福音であった。



図3 「2回目以降の授業の提示教材と授業風景」



図4 「ライフ・シフトシリーズ」

2-5. まとめのレポート

図5に「まとめのレポート」を示す。「まとめのレポート」には一切の制限をつけていないので、上手なイラストを加えて紙のノートに書く者、MS-Wordで丁寧に書く者、UNIPAに直接記入する者など、表現方法にも多様性が見られた。多岐に亘る進路の選択肢があるように、自分に合った表現方法を自ら選択することも「思い込みをぶっ壊せ」が体現できた証ではないかと考える。

2-6. 授業評価アンケート

図6に「2022年度の授業評価アンケート結果」を示す。総じて有益であったとの回答を得た。特に質問Bの「9 この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか。」の項目では「とてもそう思う」が39/49 (約80%)、「そう思う」が10/49 (約20%)であった。「10 授業内容は、よく理解できましたか。」の項目では「とてもそう思う」が38/49 (約78%)、「そう思う」が11/49 (約22%)であった。「職業音楽人キャリアI」よりも難しい内容のため、受講生に理解して貰えるかが不安だったが、嬉しい結果であった。

3. 所感

2025年前期から4年目の「職業音楽人キャリアII」を開講している。有難いことに1年目に教えた2021年入学生から現時点で延べ15名の教員採用試験現役合格者が出た。もちろん諸先生方のご指導の賜物であると十分感謝した上で、微力ながらこの授業をとおして「最後まで諦めるな」「自分の人生は自分で決める」と言ってきたことが何かしらの着火剤となって背中を押してあげられたのではないかと自負している。今後も熱い心を持った『職業音楽人』を育成していきたい。

註

- 『くらしき作陽大学 作陽短期大学 研究紀要』第57巻 第2号 (通巻第103号) 2024, p.151-161
- リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット, 『16歳からのライフ・シフト』2023, 東洋経済新報社
- <https://prezi.com/>
- <https://yuming.co.jp/>

- 5 リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット、『16歳からのライフ・シフト』2023, p.2, 東洋経済新報社
- 6 <https://str.toyokeizai.net/-/book/life-shift/>
- 7 <https://str.toyokeizai.net/-/book/life-shift/sixteen/>

4. 授業を通して

合計8回の授業を受け、自分の価値観が大きく変化した。第1回目の授業では、人生100年時代で本当に嫌だと思った。身体が衰えていくにつれ、何かに取り組むという気力も薄れていく中、何十年も生きていかなければならないと感じていたからだ。だが、2・3回目の授業を受けるにつれ、案外100年時代も良さそうだと思うようになってきた。無形資産を大切にし、健康で長生きできれば、その分たくさんの体験ができると思うようになってきたからだ。昔は、やりたいことがあっても平均寿命が短く、色々なことに取り組むことができず、一生を終える人も多かっただろう。だが現在、平均寿命が大幅に伸び、しかも医療の発達により健康に過ごすことができる。色々なことに挑戦したいと思っている私にとっては、本当に嬉しいことだと感じた。無形資産、自分の健康であったり、スキル、今までの体験をもっと大切に、これから過ごしていこうと思う。常に挑戦し、学び続け、充実した人生にしていきたい。

最後になりますが、本当に素晴らしい授業をありがとうございました。今まで20年近く生きてきた中で、先生の授業が1番心に刻まれています。色々な意味で衝撃的でした。毎回授業が楽しみで、仕方ありませんでした。この授業があったお陰で、自分の思い込みを、たくさん壊すことができました。色々な視点から物事を考え、判断することができるようになったと思います。これから先、先生の授業がないということがとても残念です。今までのノートは自分にとって大きな財産です。今でも時々ノートを見返したりしています。あの時はこうだった・・・と振り返っている時間が楽しいです。また機会があれば、授業をしていただきたいと思います。楽しい授業をありがとうございました。

図5 「まとめのレポート」

No.

Date

職業音楽入キャリアII まとめレポート

初回の授業で、「80歳の自分を考える」というキーワードがあった。当時の私は、全くイメージが出来ず「80歳はまだまだ先のことで」と思っていた。しかし、全5回の授業を終えた私は「80歳の自分」がイメージできている。正直、理想ではあるが、私が考える80歳はこうだ。まず、音楽関係の仕事が続けていて、楽器も何らかの形で続けている。さらに、音楽について理解のあるパートナーと信頼関係を築き、お互いに干渉しすぎることなく好きなことをして過ごす。できることなら、80歳までの間に、一度音楽とは離れて一般企業で働いたり、自ら起業して、経営に携わってみたいとも思う。今までは、大学で音楽を学ぶ選択をしたのであれば、就くべき職は「音楽一振」と勝手に思っていた。しかし、人生100年時代に生きる私たちは、人生の品質を上げていくために新しいステージに足を踏み入れる必要があると考える。長い人生をどう生きるか、発想を変えて視野を広げることによって新しい価値感が生まれ、私自身の未来も変わってくるような気がする。

全5回の授業を終えて、私は小さな目標を掲げた。それは「自分の中にある甘えをなくす」ことである。第7章の内容にもあったように未来のために、いま、自分に厳しく生きていきたいと思うからだ。モチベーションが下がったり、明確な目標がない時、自分の中にある甘えが顔を出し、楽なほうへと気持ちりが向いてしまう瞬間があるのを実感している。長い人生を通して生産的であるために、困難な学習目標を立てて強い意志を持ち、忍耐強く、努力し続けていきたい。ここに述べたことを、現実にするためにも、新しい価値感を生み出して、私自身が未来のロールモデルになりたい。

私が将来、教育現場に出たときの生徒は、今の私たちと価値感が大きく違うはずだ。教師側がその価値感を受け入れなければ、教育する・される関係は成り立たないと思う。様々な価値感、考え方を持った人々が共存する社会だからこそ、

(この学習を身につけてのこと)

私は先生の思い込めの話を聞いて始めて自分にあてはまることばかりだとは思っています。そんな時「困った時は補助線を引く」という言葉により、できたことと、まだクソレというこの2つに分けて考えることができるようになりました。今まではできたことに目を向けることすらできなかった。私が下った一本の補助線により、考え方が180度かわりました。

私は、主体的である。という内容において、今まで主体的でなかったわけではありませんが、自分の一歩しかはき人生を自分で選択し、その決断に向かって周りに何を言われようと、自分は自分というように、周りにとめわれず選択するすべを身につけてください。

○長期的に身につけてほしいこと → 「自分が変わらなければ周りも変わらないう」という考え方の下、言動や内面、毎日自分自身と向き合おうと思いたい。

80年以上ある人生を計画的に・・・

これから先80年以上ある人生を計画的に過ごしていくためには**無形資産**を大切にする！健康で心身ともにいつもよゆうのある人になりたいと思いたい。まずは将来のついでに、大学生活における計画的な手帳を立てようと思います。

今年も楽しい授業をありがとうございました。困った時は補助線という言葉を目印に日々自分を見つめ直していこうと思います。

職業音楽人キャリア II まとめレポート

授業のまとめとして何を書くか非常に悩んだが、授業目標の1つに「80歳の自分を考えること」があったのを思い出し、本レポートでは授業内容を踏まえつつ、自身の理想の人生及び80歳の姿について考えていきたいと思う。

結論から述べると、私の思い描く理想の人生は様々なことに関心を持ち、彩りを纏った人生である。80歳になっても何かしらに興味を持ち、それについて知り、蓄えていける自分でありたい。そのために「興味を持った事柄について後回しにせずすぐに知識や経験を得ようとする」という自分の人生において核となる思考を設置し、それに基づいて選択肢を取捨選択することで充実した人生の設計と実行を図りたいと考えている。

私は自分自身を「余計なこと」で形作ってほしいという願望がある。これは、講義の前後に関わらず感じていることである。ここでいう「余計なこと」とは、生き抜く上でさほど重要な事柄ではないが自分が興味関心を引くものを指す。授業の中で教養は人生をほんの少し豊かにするために必要であるとの話があったが、私にとって「余計なこと」とはまさに教養のように自分の人生を彩り豊かにするものだと感じている。

「余計なこと」は一見無駄のように思えるが、人生に彩りを与え、時に自分を思わぬ形で助けてくれるかもしれないという点において、授業でいう「補助線」の立場なのではないかと考えた。

先程も出てきたマルチステージという私たちが今後生き抜く人生ステージは、新しい価値観の中で年齢等に縛られず自分がどう生きたいかを考え、自由に行動に移すことであるといえる。変化していく価値観に合わせて自分も多様に変化していくことを踏まえると、ここで最も重要になるのは変化の予測と対応である。知識と経験を身に付けることは言わずもがな、それをどう活用していくかが鍵になる。そこで役立つのが補助線である。自分の持つ知識と経験をあらゆる角度から結びつけることが出来るのは補助線の大きな力である。さらに、補助線によって選択肢が新たな幅を持つこともある。つまりマルチステージの人生において補助線すなわち「余計なこと」は全て価値があるといえる。以上のことから、自分の理想の人生を本レポート2段落目のような位置づけにしている。

最後に、授業を受けたことで「余計なこと」を人生で常に求めてほしいという漠然とした自分の考えに意味や価値があることがわかり自信が持てた。この考えを自分の人生の核として、自分自身が納得の出来る、自分だけの人生を歩みたい。補助線に基づく先見的な思考は授業内でいう上流思考であるといえるが、充実した人生を送るために、常に上流思考を持って物事の取捨選択をしていきたい。理想の人生実現に向けて、今から様々なことに興味関心を持って生きていきたいと強く思う。

学生による授業評価アンケート

科目名 : 職業音楽人キャリアⅡ(音楽・短音)(8回開講)
 教員名 : 新名 俊樹
 科目分類 : _____
 授業形態 : 演習

整理番号
 教員CD

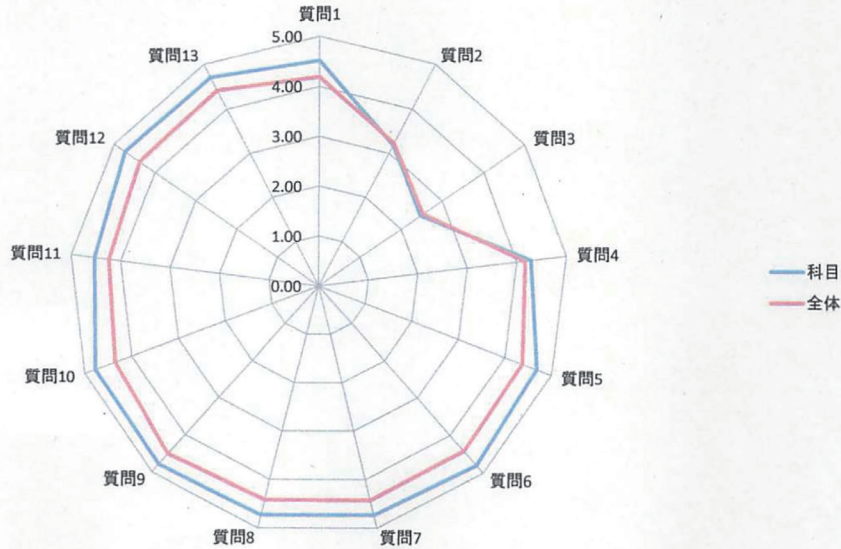
回答者数 : 49

全質問の平均 4.38

A 授業への取り組みに関する質問						
質問	全出席	実習・就職活動等以外全出席	欠席 1~2回	欠席 3~5回	欠席 6回以上	平均
1 あなたは、この授業にどの程度出席しましたか。	37	2	8	2	0	4.51
2 あなたは、シラバスで授業の到達目標や授業内容について確認しましたか。	11	6	15	15	2	3.18
3 あなたは、この授業について1週間あたり、予習・復習やレポート課題などのために平均どの程度学修しましたか。	3	2	17	20	7	2.47
4 この授業への出席状況や取り組み態度から見て、あなたはこの授業を適切に評価できると思いますか。	23	19	6	0	1	4.29
B 教員の授業態度や授業内容に関する質問						
5 授業の内容は授業概要(シラバス)の内容に沿っていましたか。	35	13	1	0	0	4.69
6 テキスト・配布資料、黒板(白板)の板書やパワーポイントの提示などは適切でしたか。	39	10	0	0	0	4.80
7 理論や考え方、専門用語などがわかりやすく説明されましたか。または演奏の技術や音楽表現について分かりやすく説明されましたか。	36	13	0	0	0	4.73
8 授業方法の工夫や時間配分は適切でしたか。	37	11	1	0	0	4.73
9 この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか。	39	10	0	0	0	4.80
10 授業内容は、よく理解できましたか。	38	11	0	0	0	4.78
C 授業の成果に関する質問						
11 あなたはこの授業のシラバスに示している到達目標に達しましたか。	28	20	0	1	0	4.53
12 この授業の内容は興味深いものでしたか。	36	13	0	0	0	4.73
13 この授業は、全体としてよい授業であったと思いますか。	35	14	0	0	0	4.71

※回答未記入者は平均算出時、母数に含まれておりません。

各質問の平均の比較



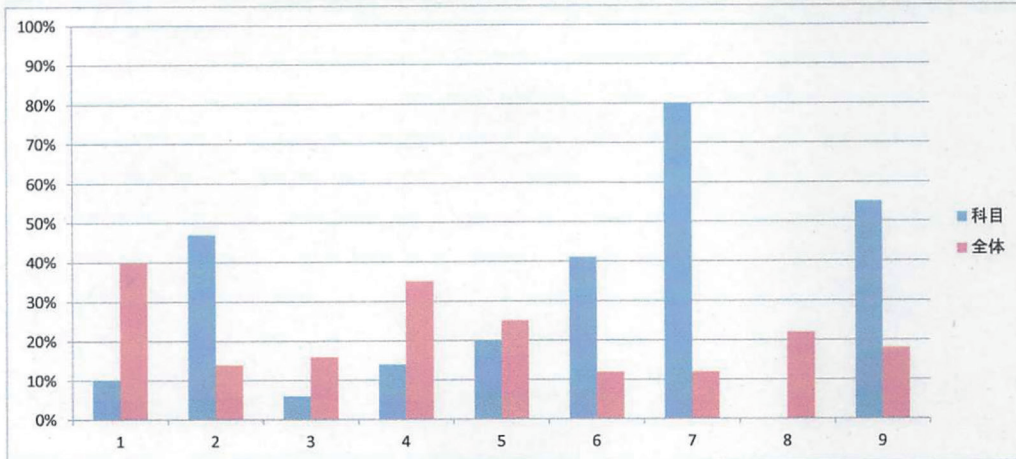
※ 全体は全科目の平均を表示しております。

1400900301_職業音楽人キャリアⅡ(音楽・短音)(8回開講)

図6 「2022年度の授業評価アンケート結果」

14 この授業を受けた成果としてあてはまる項目について全てチェックしてください。

項目	回答数
1 専門的知識や技術、または言語能力やICT活用の力などが身についた	5
2 人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった	23
3 表現力やプレゼンテーション能力が身についた	3
4 さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた	7
5 進んで取り組む実践力が身についた	10
6 問題を発見して解決する力が向上した	20
7 人としての生き方を考えたり、人間形成に役立った	39
8 コミュニケーション能力やお互いに協力しあう力が向上した	0
9 職業を選択する力の向上や、職業に就く意欲がわいた	27



※ 全体は全科目の平均を表示しております。

あなたがこの授業について良いと思った点と改善してほしいと思った点を自由に記述してください。

良かった点

どうやって努力していけば良いかという良いヒントがたくさんあった。
 新しい考え方、をインプットしつつ、自分の未来を考える時間になったと思う。
 欠席が成績に反映されないのは体調をくずしやすいので助かりました。とても楽しく興味深い内容でした。
 人生の役に立つとても楽しい授業だった。
 例えがとても分かりやすかったです。
 問題提起が分かりやすかったです。
 本当に良い授業だった。もっと受けたい。
 いろいろな考えを学べた点。
 生きていく上で大切な事を沢山知れました。
 これからのことや自分のことを考える時間をしっかりと取れて良かった。
 自分の知らなかったことをたくさん知ることができました。
 普通に生きていたら考えなかったことを考えるきっかけになった。
 一貫したテーマを持ち、様々な書籍や動画を用いて、授業を展開してくれたため、わかりやすかった点
 100年ライフについて生き方がいろいろあって勉強になりました。
 授業後にも動画で授業がみれた
 生き方や精神面での話など、自らに直接的に関する話であり、とてもためなる時間であった。
 自分だけでは見つけられなかった自己啓発本に出逢えた。
 将来について、色々な視点から学ぶことができた。
 親の世代の意見に、しばられることなく、自分で選択し、真げんに取りくんていく、考え方が変わったと思う。
 全体を通してとても興味深い授業だった。
 興味がある話が多かった。
 この時代を生き抜くためのヒントを、毎回教えていただくことができ、とても勉強になりました。
 集中して授業に取り組むことができました。

改善してほしい点

